

## 日程第 2 . 一 般 質 問

議長（倉又 稔君）

日程第 2、一般質問を行います。

発言通告者は 11 人ですが、議事の都合により、本日 5 人、5 日 4 人、6 日 2 人を予定しております。

一般質問の質問時間は、答弁を除き 1 人 30 分であります。

所定の時間内に終わるよう質問・答弁とも簡潔に、要領よくお願いいたします。

また、質問は通告の範囲内にとどめるよう、ご協力をお願いいたします。

通告順に発言を許します。

笠原幸江議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

笠原議員。〔2 番 笠原幸江君登壇〕

2 番（笠原幸江君）

おはようございます。

創生クラブ、笠原幸江です。

事前に提出いたしました発言通告書に基づき、一般質問をさせていただきます。

1、高速道路にかかる跨道橋修繕（撤去含む）計画について。

平成 28 年 1 月現在、当市は市道橋 531 橋、農道橋 28 橋、林道橋 41 橋、合計で 600 橋を管理し、計画的に点検や工事の実施を行っています。さらに、財政負担の軽減、平準化による財政見直しの観点から、当市の最上位計画である総合計画との整合を図る中で進められているところですが、特に高速道路にかかる跨道橋は、高速道路の建設により分断された既存の道路など、施設の機能補償のために、高速道路管理者が設置すると同時に、当市に移管され管理しているが、16カ所の修繕計画にどのように反映されているか。また、財政計画はどのようになっているか、以下の項目について伺います。

- (1) 供用開始から 30 年、コンクリートの寿命は大丈夫か。
- (2) 定期点検はどのように行っているか。
- (3) 現在、使われる頻度の少ない跨道橋は、今後どのように取り扱うか。
- (4) 国からの財源確保はどのようになっているか。
- (5) 各地区の該当する関係者への周知はどうか。
- (6) 高速道路跨道橋の基金積み立て準備が必要と考えるがいかがか。

以上、1 回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

おはようございます。

笠原議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、これまでの点検結果から一部に老朽化が見られますが、当面は大きな問題がないものと考えております。

2点目につきましては、新潟県橋梁定期点検要領に基づき、目視点検を行っております。

3点目につきましては、ライフラインの設置状況や橋梁本体の老朽化を考慮し、将来的には撤去についても検討してまいります。

4点目につきましては、国土交通省と農林水産省の交付金や過疎債等の優良債により、財源確保に努めてまいります。

5点目につきましては、橋梁長寿命化修繕計画について関係地区に説明をするとともに、定期点検や詳細調査等の結果により、撤去を含む修繕計画が具体化しましたら、改めて関係地区と協議をしてまいります。

6点目につきましては、公共施設の改修及び整備などに充てることを目的に、平成27年度から公共施設等総合管理基金を設置いたしております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

笠原議員。

2番（笠原幸江君）

2回目の質問に入ります。

当市は、公共施設総合管理指針が、平成28年の3月にこのような形でまとめてあります。そのほかに、また当市の橋梁長寿命化修繕計画なども、平成28年の1月にこのようにしてまとめられております。

今後、これらを中心に、各種個別計画も徐々に管理指針の基本に照らし合わせて、総合計画に反映されながら見直しを図って整合性を図っていくということが、この中にうたわれております。

糸魚川市も30年持続可能な当市を目指しておりますが、私が、なぜここで一般質問させていただいたかと申しますと、今後、この中にもうたわれておりますが、人口減少。今、5年先、10年先でなくて、20年、30年後の糸魚川市の人口が人口推計にもあらわれておりますけれども、今、4万4,000人。しかし、この先いきますと、そうならないように、今、市長が一生懸命4万4,000人を維持するために、いろんな施策を打っておりますが、人口減少は肅々とやってまいります。私も、大体そのころにはもう、人口減の真ただ中に入っておりますけれども、約3万6,000人台に入ってくるのではないかとこのことを危惧しております。

それと、財政です。とても財政が、人口が減れば減るほど財政が困難になってくることも、この指針の中にうたわれております。乏しい財源になっていくということも、この総合管理指針の中にもうたわれておるということで、実は今回、高速道路にかかる跨道橋に特化して質問させていただいていきますけれども、これらを踏まえて質問をさせていただいていることを、ご承知していただくとうれしいと思います。

まず1点目、供用開始から約30年になります。それで、コンクリートの寿命、一部老朽化ということ、先ほど市長のほうからも説明ありましたが、市内に、まず基本的なことをお伺いいたしますが、跨道橋は青海、糸魚川、能生で各何本ずつありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

建設課長（見辺 太君）

おはようございます。

お答えします。

高速道路にかかる跨道橋につきましては、能生地域に2本、それから糸魚川地域には14本、青海地域にはございません。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

笠原議員。

2番（笠原幸江君）

青海地域にはゼロで、糸魚川14本、それから能生が2本ということですが、30年前にこのような形で便利になりました。しかし、今、何が実際に出てきているかということ、30年前の人口、それはある程度利用している人たちも減ってきているということが、約30年たって、こういう実態であらわれてきているわけです。

今、一部老朽化しているとおっしゃっておりますが、その一部老朽化の現状を聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

建設課長（見辺 太君）

高速道路にかかる橋につきましては、平成24年に一度、全橋を点検いたしております。その中で2橋、市道橋と農道橋でございますが、それについてコンクリートの剥離が一部発見されまして、その部分を平成25年度にシートでもって覆って、高速道路の下に落下しないような形にということで、平成25年度に補修工事を行っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

笠原議員。

2番（笠原幸江君）

もうそろそろ、場所によって塩害とかさまざまな要件は、それぞれその場所その場所によって違うと思うんですけども、既に30年近くなって2橋、老朽化が目に見えるような形であらわれてきているということは、ほかの場所、あるいはあと16橋といいますか、そこにも随時、今後出てくる可能性が高いということが、皆さんの検査の結果でわかっておりますよね。

じゃ、この検査、2番の定期点検はどのようにして行っているか、道路交通法の改正がありました。5年に1回ということでありました。5年に1回で、この改定が平成25年の9月に改定されておりますけれども、5年に1回の検査で、その前は新しく高速道路の跨道橋ができてから、それは何年に1回ずつ、今、5年というのは私、理解してるんですが、その前は何年に1回ずつは検査されてたものなんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

建設課長（見辺 太君）

橋梁の点検につきましては、最近といいまして平成10年代ごろから橋梁の老朽化、全国的な問題でございますが、非常に問題視されてきておりました。そんな中で、国交省のほうからも、いろいろと点検をなさいという指導もございまして、5年に1度といったものにつきましては、平成26年度、これは中央道の笹子トンネルの事故に起因して道路法が改正されまして、平成26年7月から5年に1度の点検といったこととございますが、それ以前は何年に1度といったことではないですけれども、点検をするように指導がありました。

系魚川市におきましても近々でいいますと、平成19年からそれぞれ代表的な橋から順に点検を始めておりまして、平成23年までに、これは遠方目視といいまして遠くから見ると。傷んでないか、遠くから見るという簡単なものも含めて500橋を点検いたしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

笠原議員。

2番（笠原幸江君）

平成19年から随時目視をされてきておると、今、説明ありましたけれども、実は高速道路を利用するときに、やはり系魚川市の中に跨道橋がたくさん多いということが何げなく、ここにもあるここにもあるという感じで、私も承知しております。最近、高速バスで新潟とかあちらへ出向くときは、その通るたんびに天井を見ながら関心を持つようになりました。とっても関心を持つように、先ほど課長がおっしゃったように、中央道の笹子トンネルがあって、多くの方が犠牲になられて以来、私も随分こういうものに関心を持つようになりまして、車に乗ってても上見るだけでは安全もままならぬということもあるので、関心を持つようになってきました。

それで、点検された後、1本1本にそのデータというのは蓄積されて、そのデータは当市だけの管理で行ってるのか、その点検されたものは国とか県とかへ上げなくてもいいのか、その見解を聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

建設課長（見辺 太君）

点検結果のデータにつきましては当市で保管し、当市で有効活用といたしますか、している状況で

ございます。ほかには出しておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

笠原議員。

2番（笠原幸江君）

そうしますと、当市で全て管理をしているということは、全て糸魚川市で責任を持つという理解でよろしいでしょうか。例えば、跨道橋から老朽化された落下物が高速道路に落ちて、そのとき先に車が通過して、その車を傷めた、あるいは事故になったというときは、全て当市がその分を責任を持つという理解でよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

建設課長（見辺 太君）

お答えします。

この橋につきましては、道路公団から市が譲り受けまして、市のものとなっております。道路管理者たる糸魚川市が責任を持つという形でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

笠原議員。

2番（笠原幸江君）

そうしますと、30年経過してまいりました。先ほども一部、2橋については老朽化が目立ってきたという話を聞いており、それ、とても大事なことで。そうしますと、今、3番目に入りますけれども、現在使われる頻度の少ない跨道橋は、今後、先ほども市長の答弁では計画的にということだったんだけど、もうそんな待ってる時間がなくなってくると思いますが、頻度の少ない跨道橋は今どれぐらい、データの中で何本ぐらいあるというふうにして管理していらっしゃるでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

おはようございます。

16橋のうち、建設課のほうで管理しておりますのが9つございまして、残りの7つが商工農林水産課のほうで管理しております。両方の課にまたがりますので、私のほうから今、議員の質問についてお答えをさせていただきますけれども、16橋のうち橋梁長寿命化計画の中に、10年間の間に11橋、計画を入れてあります。残りの5橋につきましては、その10年の先ということございまして、今、長寿命化計画の中にはそのように位置づけて、修繕計画を捉えているということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

笠原議員。

2番（笠原幸江君）

11橋。そうしますと、これは11橋を今後、撤去の方向で進んでいくということでありませけれども、この11橋、7つが商工農林水産課ということなんですけれども、ということは、いわゆる農道あるいは林道、それらがこの中に入っていると理解して、この図面の中にもうたわれておりますけれども、そうしますとこの中で、近々に撤去をしなければいけない跨道橋というのは何本ありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

建設課長（見辺 太君）

お答えします。

16橋のうち、10年間で補修を予定しておるのは11橋でございます。それで、それ以外が10年以降という形で、それはあくまでも健全度の話でございまして、撤去をしようと今現在考えておるのは7橋でございます。7橋を撤去したいというふうに考えておりますが、これにつきましては、平成24年度に点検を行っておりますが、その後、これから平成29年・30年2カ年にわたりまして、さらにもう一回点検を行って、もう5年もたっておりますのでさらに点検を行って、その新たな点検結果を見まして、それから交通量もしっかりと確認した上で、地元の皆様のご意見もお伺いしながら、どの橋を撤去するかということ、今後考えていきたいということでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

笠原議員。

2番（笠原幸江君）

候補として11橋挙がっているのに、平成29・30年度ともう一度調査をして、それから考えるということは遅いんじゃないですか。もう、今から考えていかないと、老朽化が始まると補強、修繕修繕でいっても、将来的に今、11橋を目指してやってるわけだから、この図面から見ても頻繁に短い間隔で幾つか挙がっている、跨道橋の利用者が少なくなってきたということなので、その調査に行ったときにいつごろ、春・夏・秋・冬のうちのどの辺に調査に入るものなんですか。そこが確かに使われているかどうかというのは、今現在ではわからないですか。それ、聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

建設課長（見辺 太君）

お答えします。

それで、今後の予定につきましては、先ほど平成29・30年ということでお話しさせていただきましたが、そこでもってまず、平成24年に点検をした後、どの程度老朽化が進んでいるか。その進みぐあいによって早く撤去しないと、あるいは補修しないと落ちてしまう、事故になってしまう危険性のある橋があるかもしれませんから、まず点検をした上で、その落橋あるいは補修といったものを、選択していききたいというふうに考えております。

それから交通量につきましては、平成27年の11月に一部交通量調査を行っております。その中では、糸魚川中学校のグラウンドの横を通る美山に上がっていくメインの橋、道路がございますが、大野糸魚川2号線ということで、その橋が松ノ木原橋ということでございますが、そこには自動車は1日に1,375台通っております。人・2輪車も183あります。それからあと、後生山線という道路で後生山橋がございます。これは、蓮台寺パーキングへ向かう道路でございます、ここは自動車としては567台、人としては31人というふうに捉えております。ほかは、ほとんど測定はしておりませんが、一部測定をしたところにつきましては、二、三十台の車両の運行があったものと、あと10人以下の人が通ったといったような状況でございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

笠原議員。

2番（笠原幸江君）

人が通って、その跨道橋を渡って次、作業するとか、あるいは畑があったり田んぼがあったり、生活の道路になっているところであれば、それは修繕して住民の方たちに使っていただかなければいけないんですけども、明らかに橋はあるんだけど、反対側には余り耕作地もなくなったりとか、人が住んでなかったりとか、そういう橋はないんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

撤去を検討する跨道橋の数が7橋でございます、このうち農道橋が3橋、農業用水路橋が3つでございます。高速道路の計画がされて、このように跨道橋を建設をしていただいたわけでありまして、その当時の用地の利用の形態と、今の用地の利用の形態が違いますので、状況を確認する中で撤去についても検討していく橋梁は出てくるというふうに考えております。市長の1回目の答弁でもございましたけども、この長寿命化計画、関係する地区にこの計画をもってまず説明をする中で、詳細の設計、検討していききたいというふうなことで考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

笠原議員。

2番（笠原幸江君）

私も少し取り越し苦労になるのかもしれませんが、跨道橋、山からこらだったり、南か

ら北側に跨道橋がついてるわけですが、明らかにそこの生活圈だとか、あるいは畑・田んぼ、今、耕作できなくなっている土地があるとしたならば、その場所から行き来ができなくなった場合に、動物の道になってはいないでしょうかという心配をしております。民家のほうに、あるいは人里のほうにおりてくるときの交通が、人や車でなくて、動物が行き来するようなどころはないですかとお聞きすればよかったですけど、そういうところは今のところないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

けもの道に化していないかということでございますけども、そのようなところはないかと思っております。

ただ、先ほど答弁しましたように、高速道路建設の当時の用地の利用の形態と、今の利用の形態が変わってきておりますので、その状況をしっかりと把握する中で、撤去についても検討していく必要があるんじゃないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

笠原議員。

2番（笠原幸江君）

しっかりと調査をして、将来的には撤去を目的としている跨道橋もあるわけです。

実は私、木浦のところにある屋知橋という橋に行ってきました。行くにはちょっと急峻で、農作業したりとか、近くの人たちがとてもきれいにやぶ刈りしてあって、とてもきれいになってました。それから、ただ、橋を渡って反対側に行ったときに不便というか、余り使われてないそういう環境を目の当たりにしたとき、すごく行くまでは急峻で、やぶ刈りがとてもきれいにしてあって、このやぶ刈りというのは地域の人たちが管理を一生懸命やってらっしゃるのを見てきたんですけども、大事にしてらっしゃる橋なのかなと思って上っていったら、反対側はやはり荒れていってました。側道もありますので、遠回りすればそこに行けないことはないんですけど、あるけども不便を感じているんじゃないかなと思っておりますが、この屋知橋については、このデータから見ると農林水産課の担当になってるんですけど、実際に行かれたことはあって、あそこの橋、高速跨道橋が修理されておりました。実は天井のほうに、実際高速道路に行って通るときに上を見たら、きちりと整備されてたんですけど、あれは一体どれぐらい予算かけてやったものなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今、お話いただきました屋知橋につきましては、鬼舞の集落付近に高速道路をまたいでおる橋梁でございます。この橋梁につきましては、平成25年に126万円かけまして、先ほど建設課長が答弁しましたように、高密度のポリエチレンネットを設置して剥落の防止工事を終わらせたところでございます。特に、この地形から北西の潮風が非常に強く、橋梁の壁面も富山方面の壁面と上越

方面の壁面で色が変わるほど、やはり塩害が生じていたというところでございます。そのようなことから、剥落防止工事をさせていただいたところであります。

今、お話ありましたように、高速道路を挟みまして側道が北側と南側に整備されています。お話にありましたように、地域の皆さんが草刈りをして管理をしていただいているわけでありますけども、上部の屋知橋の越えたところの農地につきましては、さほど今、農地としての利用は大きく目立っておりません。

それから、屋知橋に行く手前で側道間を結ぶアンダーのボックスが2カ所ございます。そういうことからしますと、今後の農地利用等を考えて、地元とお話をしながら撤去するということも考えていかなきゃいけない橋梁でないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

笠原議員。

2番（笠原幸江君）

高速道路北陸道ができて30年近く。この屋知橋が、今28年、1988年の1月に完成されたものなんですけれども、高速道路にかかる跨道橋というのは事例といいますか、撤去された事例というのは実際にあるものなのか、建設課のほうで確認というか情報が入ってるものなのか、聞かせていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

建設課長（見辺 太君）

お答えします。

直接、全国に確認したわけではございませんが、インターネット等で調べますと、中央道であったり関越道で実際に撤去をしておるとか、撤去の計画があるといったものがございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

笠原議員。

2番（笠原幸江君）

それでは、4番目のところに入りますが、国からの財源確保はどうなってるかということなんです。1回目の質問で市長が答弁してくださったように優良債、このデータで見ますと優良債の種類というのは3本くらいありまして、手当てされてるんですが、優良債といってもこれ、皆、借金になるわけで、一般財源的に当市にかける割合というの、このデータの中からは出ております。

10年後先のデータもしっかりと出てきておりました。10年で31億円かかります。もちろん地方債とか国庫支出金、それから一般財源も入れてでありますけれども合計で31億円。5橋を除いての計算でありますけれども、この表を見ますと、いかに一般財源が乏しいかということが一目瞭然わかります。

ところで、国はいつまでこれを高速道路にかかる跨道橋に対して保証していただけるかどうかと

いう、優良債についての見通しというのはどうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

今、当市で橋梁等の修繕に使っている地方債については、主に過疎債というものを使っておりません。過疎債については、補助残の100%充当で後年度交付税で7割補てんされるというものであります。過疎債については、法定期間が定められて延長延長という形でできておりますので、いつまでということのはっきりは言えませんけれども、当面は大丈夫だと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

笠原議員。

2番（笠原幸江君）

そうです。これは10年先なんですけど、私、冒頭でも言いましたが、将来の人口推計が私の中では約3万6,000人ぐらいに入っていくだろうという予測をしておりますが、その人口規模が5年ごと5年ごと追っていくうちに、財政が大きく逼迫していくことは間違いなくこれにもうたつてあるわけだからいいんですけど、大丈夫だろうという考え、課長の今、答弁ありましたけれど、私は大丈夫じゃないと思って質問させていただいてるんですが、過疎債を充当しているといっても、高速道路の跨道橋だけにかけるわけじゃなくて、市内にあるさまざまな橋梁、あるいは道路全てにかかってくる計算になってますから、跨道橋だけを突出してどうこうしなさいということはいけませんけれども、今から準備しなければいけないんじゃないかなと思ってんですけども、大丈夫というのは安心していいんでしょうか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

先ほど、私が大丈夫と言ったのは、過疎債の制度が存続するだろうという意味で大丈夫という表現を使いましたけれども、当市の財政運営として大丈夫かということ、笠原議員ご心配のとおり、やはり人口減少というのは市税や、それから普通交付税、そういったものにもかかわってまいりますので、そういう中では、今回の第2次総合計画の中でも重点課題としておりますけれども、人口減少社会に対応したまちづくり、そういう中で施設の適正配置や効率的な管理、そういったものも進めていかなければならないと思っておりますし、また将来に備えるという意味で、ことしの3月に公共施設等の総合管理基金というものを設置しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

笠原議員。

2番（笠原幸江君）

5番目のほうに入りますが、先ほど市長のほうからも、ある程度、地区の関係者へ説明できるような状態になれば説明をしていきますということでありました。ぜひ、私は近々の課題だと思っております。地区に入って説明しても5年、6年あるいはもう少しかかるかもしれない。お互いに理解を深めていくには今からやらないと、計画の中にはもう撤去する検討に入ってるわけですから、時間をかけて地区の皆さんと、地区の皆さんイコール地域の皆さん全員がわかるような形で説明に入りたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思っておりますがいかがでしょうか。しっかりやっていただけるでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

建設課長（見辺 太君）

お答えします。

平成29・30年に、先ほど点検をしますというお話をさせていただきましたが、その前にやはり議員言われるように、早いうちにこれから地元に入ってご説明をさせていただいて、地元としての橋が重要なのかといったこともよくお聞きしながら、その上で点検結果を踏まえて計画を策定してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

笠原議員。

2番（笠原幸江君）

よろしくお願ひいたします。

6番目に入ります。高速道路の跨道橋の、私は基金積み立てを今から。先ほど総合管理基金を充当するということではありますが、充当するといっても跨道橋だけに使うわけじゃないし全体に係る公共施設でありますから、とてもそれだけで賄い切れるようなものではないし、特にこの指針を見ますと今、私、橋梁長寿命化のほうだけをやってますけれども、この1ページのところに公共施設全体の管理に関する上位計画として、総合計画などとして位置づけていくということを書いてあって、今後策定する各種個別計画という言葉が上がってるんですが、この各種個別計画というのは、まさに今、橋梁長寿命化計画のこういうものがその1つではないかと思うんですけれども、企画財政課長にお聞きしますけど、各種個別計画というのは、もう当然できてるんですよね。私、今これだけを見て言ってるんですけど、幾つかあると思うんですができてますよね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

長寿命化計画については、国の方でも今、非常に力を入れております。橋梁も学校もそうなので

すけれども、こういった長寿命化計画をつくらないと補助対象にはしませんよという、そういう形で進んでおりますので、そういった財源対策として必要なものについてはもう先行して長寿命化計画はつくられております。

それ以外にもやはり、公民館とかいろんな施設ありますので、そういった施設についても長寿命化計画をつくるようにということで、各課のほうへ指示を出しております、おおむね2年間以内には各施設においた長寿命化をつくるようにということで考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

笠原議員。

2番（笠原幸江君）

ということは、まだあと2年ぐらいかかるということで、できるのは、橋梁長寿命化計画だけができていて、ほかのはまだできていないというふうに理解してよろしいのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えします。

私の今、頭の中にある限りでは、あと学校のほうでもできていると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

建設課長（見辺 太君）

お答えします。

建設課におきまして、公営住宅長寿命化計画というものを平成26年の3月、それから公園施設長寿命化計画というものを、これも同じく平成26年3月に策定いたしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

笠原議員。

2番（笠原幸江君）

私、何でしつこく聞いているかというと、高速道路跨道橋の基金を積み立てて、今から準備したらどうですかと言ったら、総合管理基金を充当するとおっしゃるものですから、ほかのところも全部できておればもう、それにも充当しなければいけない。今、建設課のほうで2点ほど入れて長寿命化計画がもうできていると言うから、それだったらわかるんですけども、まだこれから2年先といったら総合計画にも影響してくるんじゃないかなと、ちょっと今、瞬間に一抹の不安を覚えたんですが、もう既にこれできてなければいけない。これをもとに、これを基本にして各さまざまな各種個別計画というのができ上がっていかなくちゃいけないとこれに書いてある、これを基本としましょうと書いてあるんだけど、建設課のほうで早い対応で、早く手を挙げなさいとこれには全国的

な課題として、国は平成26年の4月、公共施設などを総合的にかつ計画的に管理するために、公共施設など総合管理計画を速やかに策定するようというからこれは間違いはないけれども、お金のことになると心配になってくるので、私は高速道路の跨道橋を撤去するための基金を今から準備されたらどうかと思っておりますが、高速道路には減価償却というその計算方法というのはないものなのでしょうか、聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤産業部長。〔産業部長 齊藤隆一君登壇〕

産業部長（齊藤隆一君）

ご質問の減価償却という考え方は、高速道路についても持っておりません、ありません。

ただ、笠原議員が一番ご心配いただいているのは財政的な面で、もちろん橋梁だけがインフラ資産ではありませんので、インフラ資産も今、公共施設等総合管理指針の中にしっかり位置づけをしておりますけれども、そのうちの今、ほんの一部が高速道路にかかる橋の修繕であったり撤去という位置づけでありますので、このことは、前段のご質問でもありましたしっかりと財源確保していくという話の中に尽きるわけですけれども、国の補助金・交付金それから優良債・過疎債になりますけれども、こういった手当をしっかりしていくことで、必ずしも基金がなければできないということにはならないような財政面での手当をしっかりと、国へ声を上げていくということが一方では必要だというふうに考えています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

笠原議員。

2番（笠原幸江君）

国も元気で地方も元気であれば、20年・30年先を保證できるかと思うんですが、今、国も大変厳しい状態。それから、地方も少子化によって厳しい状態であります。一番かかる跨道橋の撤去も検討に入っていかなければいけない時期に、少しずつでも基金を積んでいったほうが、それに充てられるかなというふうな考えであります。この基金を積むとか積まないとか、取り扱うとかというのはどなたが決めるものなんですか。行政の中では誰が、これを決めていこう、これはやっとなきゃいけないぞというのはどなたが指示されるものなんですか、聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

ここまで、笠原議員のほうから話がありましたように、公共施設の総合管理指針をことしの春、策定いたしまして、全体的に糸魚川市の中にインフラ、それから公共施設、たくさんあります。おっしゃられるように、このまま20年・30年先まで維持することは困難だよというのが、この指針の中にうたっております。

そういう中におきまして、インフラ等は長寿命化を保てるように点検等をしながら使っていくん

だけれども、総量的には人口規模に応じて落としていく必要があるというような観点で進めております。

そういう中において、財源の問題でございますが、今後、特に20年・30年後に更新の費用が非常にかかるというのが、指針の中にも書いてございます。総体的な全体的な施設の更新に充てるために、先ほど企画財政課長のほうでも申し上げております総合管理基金というものを充当しております。それぞれの分野ごとに基金を持つのも1つの考え方でございますけれども、公共施設全体を更新する計画の中で総合的な基金を持って、財政運営の一部に将来的に充当していこうと。その間に有利な国からの補助制度、あるいは有利な起債、これらを含めながら、長期財政見通しを10年間立てておりますが、それを長期財政見通しの中で見直しをしながら当面の5年・10年の財政計画もその中で考えて、長期的な視点と中期的な視点と両方を兼ね備えながら、財源対策をとってまいりたいというふうに考えて基金をつくってございます。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

笠原議員。

2番（笠原幸江君）

合併から11年です。もう既に、公共施設総合管理指針の中にもたくさん、今おっしゃられたような跨道橋だけじゃないんです。私、きょうは跨道橋だけを突出して質問しておりますが、総合管理基金の中で賄うということは容易じゃないです。だって、まだ行政改革だって道半ばでしょう。平成17年に合併したときから行政改革、行政改革とやってきたのにもかかわらず、その方向がまだ見えてないじゃないですか。その中にも、たくさん施設あります。それがまだそのまま残っているわけだから、その中でその総合管理基金を充当していくといっても、なかなか跨道橋の撤去というのは大変な作業になると思うんですね。その中も全部含めてやるという、そのほかにまた市道があったりとか、先ほど私も一般質問の冒頭で言いましたが、あれだけの数、橋があったり、建設課だけでお話しするだけではないかもしれない600の橋が、そのほかにまだ見えない橋があるわけでしょう。その中をこの1つで絡めてやるというんじゃなくて、しっかりと見据えてやらないと、子供たちあるいは次世代に負の資産を残していくわけにいかないと思うんですね。だから、しっかりとそれを決める、私、先ほど誰が決めるんですかと言ったけど、金子部長は誰が決めるとおっしゃらなかったんですけど、市長いかがですか。やはり将来、自分たちの子供たち、孫やその子供たちにそういうインフラ資産、あるいはこの総合公共施設に係る基金が幾らあっても足りない時代に入ってきてます。心配しております。財政がだんだん厳しくなっている中で、ぜひ、市長のご決断を聞かせていただきたいんですけどいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、問題いただいております高速道路の跨道橋につきましては、今、使われていないところはも

う撤去するというのありきで話をしておるんですが、やはり設立の目的また、ある一定の基準でつくられておるこの施設でございますので、使われなくなったからではなくて、撤去しなくちゃいけないくらい老朽化してきたらどうするのか。今は撤去する数も入れておるんですが、まだまだそういうところには行っておりません。そういう中で、我々は全体的な中で捉えていくべきであろうと思っておりますし、当然、危険なものになったらもうそれはやらなくちゃいけないんですが、逆に撤去するよりも、やはり多少の維持管理、メンテナンスの中でこの延命ができるとしたら、またさらに続けていくものもあるかと思うわけであります。最終的なやはりそのところは、撤去ということになるんだろうと思います。それを見ながら、どれを優先的にしていくかというのはまだ、数多い橋があるわけでございますので、そういう中で捉えていきたいと思っておりますし、これは全ての施設もそうでございますが、この老朽化の中で撤去するのか存続するのか、メンテナンスの中で対応していくのか、非常に大変な数あるわけでございますので、その辺をしっかりと見据えながら進めていきたいと思っております。あくまでも、何年たったから壊すんだ、撤去するんだというところは考えてございません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

笠原議員。

2番（笠原幸江君）

ありがとうございました。これで私の一般質問を終わります。

議長（倉又 稔君）

以上で、笠原議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

関連質問なしと認めます。

次に、吉川慶一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

吉川議員。〔1番 吉川慶一君登壇〕

1番（吉川慶一君）

おはようございます。

創生クラブの吉川慶一です。よろしく願いいたします。

1、糸魚川市の農業の持続と農地の維持について。

当市は、耕作条件が厳しい中山間地域を多く抱えており、担い手も65歳以上の割合が80%を超えております。農家の高齢化、米価の下落で農業を引き継ぐ人が減少しております。また、農業資材の高騰で経営に一層厳しさを増しています。集落営農でコスト低減を狙って作業手数料などを下げなければやっていけない状況となっております。山間地域の集落がこれからも存続するためにも、農業の持続が不可欠であります。

また、農業を取り巻く環境は、不安定な需給による米価の下落、平成30年から国による米の生